

OKIU

Vol. 118

2022
winter

MAGAZINE



- 2 特集：学生支援
キャリア支援課に行こう
- 6 特集：学生支援
奨学金制度を活用しよう！
- 8 本学資料の写しを寄贈
—創立50周年を迎え地域への感謝を込めて—
- 講演会
10 「復帰」50年と
これからの沖縄経済
—地域とともに沖縄の未来を考える
- 12 シネマ組踊 孝行の巻
上映会を開催
- 14 OKIU青春白書 特別編
宮平 貴子さん
- 18 OKIU青春白書
～活躍する学生たち！
- 24 小学校の教員免許状
取得課程（連携）が始まります！
- 26 第51回沖縄大祭レポート
- 34 OKIU NEWS TOPICS
ニュース・トピックス
- 42 クラブ・サークル紹介
- 46 学内人事
- 48 大学行事案内



なか むら りょう か
中村 涼香

日本文化学科

私は日本語教員を目指し、日々勉強に励んでいます。日本語を1つの外国語として捉えることは、新たな発見があり、とてもおもしろいです。大学ではさまざまなことに挑戦できる機会がたくさんあります。この環境に感謝を忘れず、これからも挑戦、そして努力し続けていきたいと思います。

CAREER SUPPORT

キャリア支援課に行こう！

一人ひとりの進路をしっかりサポート

就職活動は初めての体験。どんなふうに進めていいのかわ不安や迷いがあるのは当然です。キャリア支援課では、キャリアガイダンスをはじめ公務員、教員、一般企業などの各種採用試験対策講座、進路相談、模擬面接、履歴書添削など様々な取り組みを行っています。また、就職資料コーナーには、求人、企業、公務員試験に関する情報を取り揃え、設置されたパソコンから就職システムやインターネットを利用し、就職情報を迅速に収集できるようサポートしています。目的意識をしっかりと持って、納得のいく進路決定が出来るようキャリア支援課スタッフも全力で応援します。

1 専門スタッフによる就職相談

専門スタッフによる就職相談や模擬面接、履歴書・エントリーシートの添削などを行っています。各スタッフのスケジュールは以下のとおりです。（事前予約制）

- ・キャリアアドバイザー 毎週月曜日から金曜日
- ・キャリアカウンセラー 毎週火曜日および水曜日



2 企業説明会、公務員・教員採用試験制度説明会の開催

学内において、各企業の会社説明会、国家公務員各種、教員採用試験説明会を行っています。2022年度は個別企業説明会を273回開催しました。



3 充実した就職関連資料

県内外企業からの求人票、就職情報誌、その他就職に関する諸資料を取り揃えています。企業研究に大いに活用して下さい！



4 就職模擬試験、適性検査の実施

企業や公務員模擬試験、その他適性検査を行っています。2023年度実施予定の試験は次の通りです。

- ・国家公務員一般職採用模擬試験
※課外講座内で実施
- ・地方公務員採用模擬試験
(行政職【地方上級】、警察官・消防官)
※課外講座内で実施

5 県外就職活動補助金

県外就職活動（合同企業説明会、会社訪問、採用試験・面接、インターンシップ等）を行う際、旅費等の一部を補助しています。



6 学生サポーターの導入

学生にとって就職活動は初めての体験で、不安や悩みも多いものです。そんな不安や悩みは実際に就職活動を終えたばかりの先輩に相談することで解消しましょう。これから就職活動を始める学生にとっては、気軽に先輩の実体験を聞けるまたとない場です。ぜひ活用して下さい！



7 「沖縄大ポータル」と公式YouTube、各種SNSによる迅速な情報提供

沖縄大ポータルでは、就活セミナー・イベントや学内学外問わず開催される企業説明会の情報をはじめ、先輩達の各種採用試験報告を閲覧することができます。また、公式Youtube「キャリちゃんねる」では、「就活の流れ」を確認するための動画や学生サポーターによる企業訪問等様々な動画コンテンツを準備しています。これらの情報は、公式SNSでも発信しています。



YouTube「キャリちゃんねる」



Instagram



Twitter

就職活動スケジュール

就職活動に近道はありませんが、頑張った分だけ成長できます。何ごとにも順序があるように、就職活動にも順序があります。自分の中の願望と可能性とを照らし合わせながら、将来の自分へ向かう第一歩を踏み出してください。先生のアドバイスや先輩の体験談、同じ仲間との情報交換なども大切です。常に自身の“アンテナ”をはりめぐらせましょう。

少しづつ
ステップアップ
していこう！



4年次

3年次

2年次

1年次

あらゆることに チャレンジ

とにかくあらゆる事に積極的にチャレンジしましょう。多くの人と交流を持ち、将来の自分をイメージしながら、自己の基礎能力を把握することが大切です。

自分自身を再確認！

「学ぶこと」への興味を高めつつ、将来自分を最大限に活かす仕事を見つけるために、自分自身を再確認しよう。

充実した
サポートが
頼もしい！



コツコツと積み上げて、 計画を立てよう。

就業観・職業観を学び、インターンシップ、ガイダンス、就活準備のための講座・セミナーに参加することで、企業研究を深め、職種の絞り込みや就活プランを立てよう！また、3月に就活が解禁したら、学内合同企業セミナーに参加して、会社訪問を積極的に行いましょう。

本格的に始動しよう！

就職先を早めに決めるために、学内合同企業セミナーや、さまざまな就活支援講座・セミナーに参加し、早い時期から対策を行いましょ。そして、遅くとも年内には就職先を決定し、学生生活の総括に加え就業前の準備期間として有意義に活動しよう！

1年次～4年次

年間を通して行っている 就活プログラムも！

- 就職相談・履歴書添削・模擬面接 (キャリア支援課・キャリアカウンセラー)
- 共通科目「キャリア教育科目群」との連携
- 出張キャリアガイダンス(所属ゼミ)
- 資格取得支援
- 筆記試験対策講座(SPI・教養)
- 就活支援講座・セミナー各種



前期

- キャリアガイダンス(前期)
- インターンシップ事前ガイダンス
- 夏休み直前ガイダンス
- インターンシップ(夏期休業期間中)

後期

- 就職ガイダンス(後期)
- 県外就活支援開始
- インターンシップ事後ガイダンス
- インターンシップ報告会
- 内定者座談会
- OB・OGによるトークセッションイベント
- 筆記試験模試
- 業界企業研究セミナー

前期

- 就職ガイダンス
- 学内企業説明会
- 筆記試験模試
- 会社選考会開始(6月から)

後期

- 学内企業説明会

就職内定を掴みとった先輩からのメッセージ！

MESSAGE



自分らしさを大切に

大学生活中に抱く不安のひとつに「就職活動」があると思います。キャリア支援課や各企業の方々は、コロナ禍の就職生のために工夫を凝らしたオンライン／対面での、情報発信やイベントの開催をしております。私はそれらの機会に積極的に参加し、多くの社会人や就活仲間と出会いました。そこでの学びを通じ自分と向き合い就職活動を続けた結果、納得のいく進路決定ができました。就職活動で学んだことを活かしこれからも自分らしく頑張ろうと思っています。

今後どんなに環境が変化してもできることを模索し、大学生にしかできない経験を積み、自分らしさを大切に大学生活を楽しんでください。

株式会社 琉球銀行

上原 なつ

【うえはら なつ】

企業システム学科 2021 年度卒業
那覇高校出身

奨学金制度

学びたいあなたを応援します!

大学4年間で必要な学費はおよそ350万円。奨学金制度を活用し、充実したキャンパスライフを過ごしませんか。



- 大学独自の奨学金制度があり、すべてが返済不要の「給付型」です。
- 日本学生支援機構等、学外の給付・貸与型奨学金への応募ができます。
- 奨学金制度を利用することで経済的負担が軽減され、学業に専念できます。

※奨学生は、応募者の中から選考により決定します。

※日本学生支援機構の奨学金は、高等学校で予約申込みができます。

給付型

返済する必要がない
奨学金

学業、人物ともに優秀で、
経済的理由により修学が
困難な学生に給付されます。

(例)

- 特待奨学金 ● 一般奨学金
- スポーツ奨学金 ● 文化活動奨学金
- 国内協定校派遣留学奨学金
- 後援会奨学金 ● 校友会奨学金 など

貸与型

卒業後に返済が必要な
奨学金

学業、人物ともに優秀で、
諸事情により修学が
困難な学生に貸与されます。

(例)

- 日本学生支援機構奨学金
- 沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金
- 交通遺児育英会奨学金
- 地方公共団体奨学金 など

修学支援新制度

【対象】
住民税非課税世帯・
準ずる世帯の学生

授業料・入学金の減免
+
JASSO給付型奨学金の支給

本学は高等教育の修学支援新制度
の対象校です(2022年4月現在)。
制度詳細については、
文部科学省特設サイト
および本学ホームページ
をご覧ください。



○ 本学の学費と諸費用

内 訳	初年度(1年次)	2年次以降	4年間合計
①入学金	120,000円	—	120,000円
②授業料	610,000円 (前期305,000円) (後期305,000円)	610,000円 (前期305,000円) (後期305,000円)	2,440,000円
③施設設備資金	200,000円 (前期100,000円) (後期100,000円)	200,000円 (前期100,000円) (後期100,000円)	800,000円
④後援会・体育会費 文化会費・校友会費 学生保険料 ^{※1}	41,160円	16,500円	90,660円
1年間の合計	971,160円 (前期566,160円 ^{※2}) (後期405,000円)	826,500円 (前期421,500円) (後期405,000円)	3,450,660円

※1 編入学生の場合は④の金額が若干変わります。 ※2 入学時納入金額

STUDENT MESSAGE



自分が頑張った分サポートしてくれます

私は本学の様々な奨学金制度の中から、特待奨学金を頂いています。日本学生支援機構からの奨学金も貸与していますが、それだけでは学費分全額を賄うことができないため、特待奨学金を頂けて本当に助かりました。自分が頑張った分が認められ2年連続で特待奨学金を頂くことができ、大学のサポートのおかげでより勉強に力を入れることができています。大学院への進学を目指しており、自分の進路に向けて勉強をし、毎日充実した大学生活を送ることができています。本学には特待奨学金の他にもさまざまなサポートがあります。また、図書館など施設が充実しており、自分のやりたいことに精一杯励むことができると思います。

宮里 歩夢

【みやざと あゆむ】

地域行政学科 4年次 普天間高校出身

本学資料の写しを寄贈

— 創立50周年を迎え地域への感謝を込めて —



本学に保存されていたオープンリールテープ

創立50周年を迎えるにあたり、本学に保存されている資料の再整理に努め、創立50周年特設サイト(<https://50th.okiu.ac.jp/>)に公開する作業をすすめております。

この度、本学の設立にご尽力された大濱信泉先生の肉声が記録された音源が発見されました。資料は、1973(昭和48)年9月22日に旧3号館・5号館の竣工を祝う「大学ビル竣工式典」と、1974(昭和49)年9月28日に開学時の建設計画が完了したことを祝う「沖縄国際大学竣工式典」が記録されたオープンリールテープです。大濱先生は両式典で、本学開学記念事業期成会会長として挨拶を述べておりました。

本学は、創立50周年を迎え地域への感謝と、地域貢献活動の一環として大濱先生の祝辞音声(写)を石垣市の大濱信泉記念館に寄贈するために、2022年6月3日(金)に前津榮健学長(石垣市出身)が石垣市教育委員会を表敬訪問いたしました。

大濱先生の資料などは、石垣市の大濱信泉記念館にも保存され一般公開されておりますが、同館に音声記録については保存されていないだろうとのことでした。



贈呈式にて目録を授与する前津学長(右)と崎山教育長(左)

贈呈式で前津学長は、「大濱先生は日本復帰において沖縄との関わりが大きかったが、とりわけ復帰後の沖縄の私立大学の未来も深く考えていたことが伺われました。八重山の皆様ぜひ本学と大濱先生との関わりを知ってほしいと思います。創立50周年の節目の年に、大濱先生の音声を先生の郷里である八重山に還元できたこと、また、本学の地域貢献活動の一環にも嬉しく思う」と述べられました。

崎山晃石垣市教育長からは、「日本復帰だけでなく、沖縄国際大学の創設に関わったことなど裏方として貢献してきたことがわかった。大濱先生の新たな活躍を知る貴重な音源として活用させていただく」という感謝の意が述べられました。

寄贈した資料は展示方法などを検討のうえ、大濱信泉記念館に展示される予定です。本学創立の経緯については、右記のサイトに公開しております。



上:1973年9月「大学ビル竣工式典」で祝辞を述べる大濱先生

下:1974年9月「沖縄国際大学竣工式典」で挨拶する大濱先生

創立50周年特設サイトはこちら
<https://50th.okiu.ac.jp>



「復帰」50年と これからの沖縄経済 —地域とともに沖縄の未来を考える 講演会／シンポジウムを開催!



沖縄国際大学は「地域に根ざし、世界に開かれた大学」をキャッチフレーズに、教育・研究活動の成果を広く地域社会に還元し、地域文化の向上に貢献することを重要な使命の一つに掲げています。

この度、2022年12月17日(土)に『「復帰」50年とこれからの沖縄経済—地域とともに沖縄の未来を考える』というシンポジウム形式の講演会を開催いたしました。

本講演会／シンポジウムは、2022年7月30日から10月8日までの期間、本学経済学部経済学科教員10名が『「復帰」50年と沖縄経済』をテーマに「うまんちゅ定例講座」を実施したものから、沖縄振興50年の展開とその経済効果に内容を絞って開催しました。

第一部では、『「復帰」50年と沖縄経済の現在地』というテーマで、本学経済学科教員の宮城和宏先生：「沖縄振興50年」、比嘉正茂先生：「沖縄振興予算の経済効果」、名嘉座元一先生：「県民の生活と意識の変化」という

テーマで講演を行いました。第二部では、県内経済界のトップリーダーである、那覇空港ビルディング株式会社代表取締役社長の安里昌利氏をお招きし、「アジアの時代到来!アジアのダイナミズムとこれからの沖縄」と題した特別講演をいただきました。特別講演後は、安里様と第一部に登壇した教員と村上了太先生(経済学部長)を交えたパネルディスカッション「沖縄の未来を考える」を行いました。



上段:左より宮城和宏先生、安里昌利様、比嘉正茂先生、名嘉座元一先生、村上了太先生
下段:(左)特別講演中の安里様、(中)(右)活発な議論がなされたパネルディスカッション

本講演会／シンポジウムには、本学学生をはじめ、沖縄経済に興味関心のある社会人から地域の方々まで約60名の参加者があり好評のうちに終わることができました。本学は、これまで育んできた教育や研究の成果を、「地域に根ざし、世界に開かれた

大学」というキャッチフレーズに結び直し、これからも広く地域社会の発展の一翼を担っていきます。本講演会／シンポジウムの内容は、本年3月に『沖国大ブックレット No.15』として刊行本が発売予定です。



シネマ組踊 孝行の巻

上映会を開催



7月22日(金)、7号館201教室にて、「シネマ組踊 孝行の巻」上映会を開催しました。

本作品は、本学卒業生で映画監督の宮平貴子さん(文学部英文学科 2001年度卒業)が監督を務められました。

映文連アワード2022優秀企画賞受賞、文部科学省選定*も受け、1月の東京渋谷のユーススペースでの公開は大盛況で全国に広がっています。

本上映会は本学卒業生を応援し作

品を学生(後輩)に紹介すること、組踊を映像を通じて鑑賞してもらい沖縄の伝統文化について考えてもらうきっかけになればと考え、本学とククルビジョン(宮平さんが代表を務める映像プロダクション)の共同企画で実現しました。

「孝行の巻」は、組踊の創始者である玉城朝薫の作品で、嘉手納町にある「やらむらち屋良漏地」大蛇伝説を題材にしています。

宮平監督は、上映前の挨拶で「シネマ組踊は、組踊を新しい切り口で映像化するプロジェクトです。私は、組踊はおろか伝統芸能にもあまりご縁がなかったのですが、今回のプロジェクトをきっかけにその素晴らしさを知りました。なので初めて見る人にその魅力を伝えるにはどうしたらいいだろう、と試行錯誤しました。また玉城朝薫ならどう映像化するだろう?ということも考えながら組踊という舞台芸術から遠くならないよう工夫しました。ぜひまだ食わず嫌いしている人には一度は見て欲しいです。」と真剣に話されていました。

上映会後には、本学経済学部経済学科の浦本寛史先生(芸術学)進行のもと、宮平監督と本学学部生・大学院生によるトークセッションを開催。映画を見た感想、組踊を若い世代に見てもらうためにはどのようにしたらいいかなど率直な意見が交わされました。特に、「どうしたら若い世代に足を運んでももらえるだろうか?」という議論では「今は短い動画が流行り、その量も多く映像も大量消費されている。その中では映画にもなかなか誘いづらくハードルが高い。」などの現実的な問題点があげられたほか、「学校で上映会をすることで興味関心を広げていけるのでは」「美しさに感動した。なのでSNSなどでもその良さを主に発信したら届く人もいると思う」など様々な提案が交わされました。そのほか、宮平監督からは組踊を映像化する際にこだわったポイント、映像と舞台芸術の違いで工夫した点などを話していただきました。

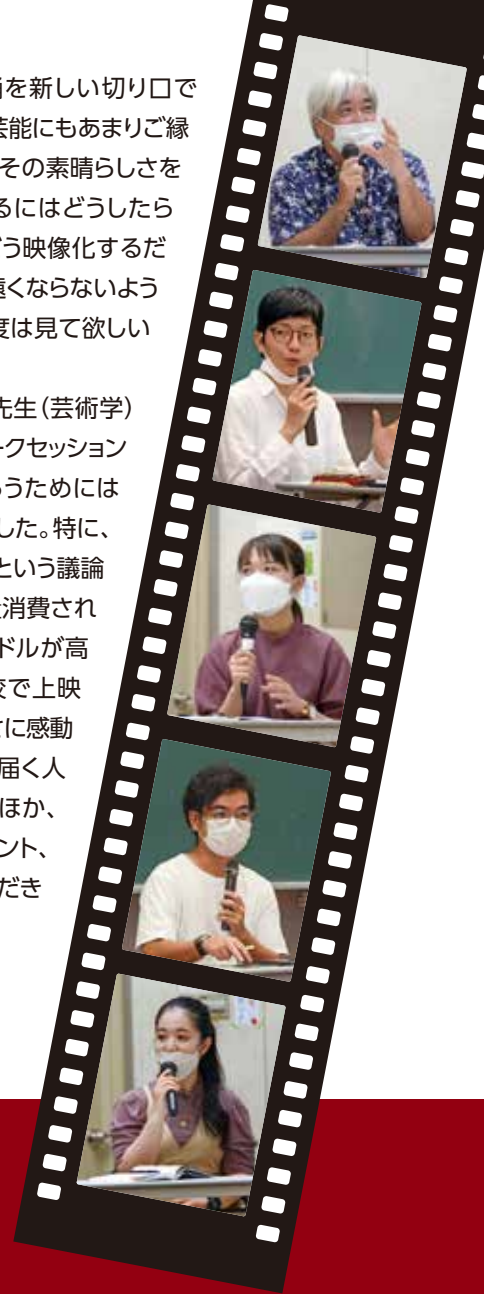
孝行の巻とは?

ククルビジョンホームページより

“ 組踊の始祖・玉城朝薫が作ったと言われる5作品(朝薫の五番)の中でも、別れの悲しみを描く「静」と、擽猛な大蛇が火を吹く「動」の対比が観るものを魅了する。 ”

STORY

田畑を荒らす大蛇を鎮めるため、王府は生贄を募るお触れを国中に出した。ある日、父親に先立たれ母を支えながら貧しく暮らす姉弟が、落穂拾いの際にお触れ書きを見つけた。姉は母や弟のために自ら犠牲になろうと王府へ申し出る。生贄の儀式の日、大蛇が出現し娘を飲み込もうとする瞬間…。



シネマ組踊 孝行の巻
特設サイトはこちら >>>



OKIU 青春白書 特別編

～活躍する卒業生!～



Takako Miyahira
宮平 貴子

文学部 英文学科
2001年度卒業
映画監督



在学中に短編映画を作り始める。
卒業後、カナダ出身のクロード・ガニオン監督のカメラ助手を経験し、カナダ・モントリオールを拠点として活動する。海外での映画製作に携わりながら、原点である沖縄の地域の魅力・人の魅力に気づき2011年に沖縄に戻る。映画会社ククルビジョンを立ち上げ、映像を通じて沖縄の魅力を世界に発信し続けている。

子どものころのお話しをお聞かせください

漫画好きで、少女漫画からドラゴンボールまでさまざまな漫画を読んでいた。小学生のころは、自分で描いた漫画を友だちに見てもらって楽しんでいました。

中学生になると、漫画を描くことから映画を観るほうに興味が変わり、さまざまな映画を観るようになりました。

高校を卒業する頃に一般の映画サークルに所属しまして、映画の宣伝などをしていました。

沖縄国際大学に入学したきっかけを教えてください

これも映画がきっかけですが、高校生のころによく見ていたハリウッド映画の影響で英語が好きになりました。もっと英語を勉強したいなと思い、英文学科を受験しました。

入学してわかった本学の魅力はありますか

うまく言葉にできないのですが、私自身の人生のなかでも大学時代は1番フットワークが軽かった時代です。学外でも出会いや交流があり人生が広がった時期でした。あの好奇心のままに動いた、自由な時代がなければ今の自分は存在しないといっても過言ではありません。それができたのはやはり「学生の好奇心を後押しする」文化が先生方にもあり、学校側でも様々な機会を用意しています。それは大きな魅力の一つだと思います。

例えば、台湾に興味をもったとき、大学3年次に台湾の東海大学に短期語学セミナーに参加しました。言葉は違いますが、異文化ですが沖縄と近くて面白い土地と思いました。このセミナーがきっかけで台湾に興味を持ち、『百日告別』という台湾と共同プロデュースする作品を手がけました。異文化に興味を持つきっかけが制度として充実しているのも魅力だと思います。また後述のインターンシップなどの情報も大学で



学生が集まる5号館ロビー

入手でき、直接の就職にはつながらなくとも様々な経験をしたことで今の自分があり、とてもいい経験になりました。

余談ですが、大学の敷地や建物の空間などがいいサイズだなと思います。広すぎず、狭すぎず学部以外の学生とも交流がしやすい環境だと感じます。実際、5号館ロビーを友だちとの集合場所としてよく利用していましたが、そこで何度か出会った方に話かけて友だちになったりしました(笑)。「会いたい人に会える場所」だと私は思っており、初めての短編映画も5号館を舞台にしたほどです(笑)。

映画を制作しようと思ったきっかけを教えてください

大学入学後に、外国人の先生の英語の授業で映画を作ろうという話を先生から持ちかけられました。色々ありまして授業で映画を作るとは流れましたが(笑)、そこで映画が好きな仲間と出会うことができました。その方たちや、友人、先生に協力してもらい、初めての短編映画を大学2年次に制作しました。その後は、3・4年次に1本ずつ制作し、大学祭で上映しました。短編映画制作でも学友や先生にも恵まれ、ときには無理をいって先生に出演していただいたりもしました。



そのころから映画監督を目指していましたか

確か大学3年次のころだったと思いますが、東京の広告代理店にインターンシップをしました。あの頃から映像に関わる仕事に就きたいと考えており、インターンシップ先ではさまざまな映像を見せていただきました。その経験から、映像に関わる仕事への気持ちが高まり、CM制作のアルバイトを始めました。

そのバイトはいかがでしたか

アマチュア制作現場とプロ制作現場の違いや重みを知りました。私はPA(制作アシスタント)として関わりましたが、ディレクターの席はこんなにも遠いということを痛感し、一度あっさり映像の道を諦め、別の業界に就職活動を始めました。それが4年次の春でした。

一度諦めた映画への道ですが、どのようなきっかけで再チャレンジをしましたか。

別の業界に就職活動を始めた時期に、同じ映画を作っていた仲間から、カナダ人の監督が沖縄で撮影しカメラ助手を探していると聞き、「最後のチャンスだ」と思い面接に行きました。それが、私に多大な影響を与えてくださったカナダ出身のクロード・ガニオン監督です。カメラ助手として採用され、沖縄での撮影に同行しました。最初は沖縄の撮影のみでしたが、県外での撮影にも同行するようお誘いを受け京都・東京ロケに同行しました。

スタッフは少ない中で、監督自身がカメラを回し、その助手だったため現場の中心で映画作りを体験できました。少人数スタッフでも内藤剛さん・桃井かおりさんや奥田瑛二さんなどの一流の役者さんたちが一丸となって映画をつくりあげていくのを目の当たりにして、「進みたいのはこの世界だ」と直感しました。

ただ、4年次だったので卒論との両立が大変でした。沖縄と県外の往来が多く、卒論を完成

出来そうになかったら退学も視野にいれていました。指導教官だった新里勝彦先生に厳しくも諭していただいてどうにか卒論を仕上げ、卒業することができました。感謝しかありません。

また、毎年のように映画の感想を真剣に話してくださった追立祐嗣先生には、在学中の最後の作品「CALL」をみていただいたとき「やっと空気感を描けるようになりましたね」という言葉を頂いたとき、先生は本当に様々な英文学や映画にも詳しい方で、映画監督を目指すタイミングでもあり、とても勇気づけられました。

卒業後のお話をおきかせください

1年間は沖縄でフリーランスとして現場経験を積み、2003年にガニオン監督の『KAMATAKI-窯焚-』(2004年制作)の助監督として呼ばれカナダ・モントリオールと映画の舞台である滋賀県信楽を歩きながら現場経験を積みました。2008年に『アンを探して』で長編映画の監督・共同脚本を手掛けて、「第5回アジア・フェスティバル・オブ・ファースト・フィルムズ」にて、邦人初の最優秀監督賞と最優秀作品賞を受賞させていただきました。

カナダとの共同製作を通じて、国籍や人種を超えてさまざまな人と関わりを持つことができ「人間」について深く考えさせられました。その経験の原点は沖縄国際大学で学んだことにあると思っています。

そして、海外に出てはじめて生まれ育った沖縄の魅力、人の魅力に気づいたこともあり、2011年に沖縄に戻り映画会社クルビジョンを立ち上げました。



現在の目標をお聞かせください

沖縄にはまだ語られていないことがいっぱいあると思います。また、語られている文化ではありますが、それらをどのように次世代につなぐか、という課題もあると思います。

語られていない沖縄のことも含め、映像を通じて沖縄の人と魅力を世界に発信し続けようと思っています。

最後に沖縄生にひと言メッセージをお願いします

私にとって沖縄国際大学は、「未来を広げる交差点」です。

言葉どおり、私にとっては様々な学部の学生が自然と交流できる、5号館のロビーが、映画を作る友人との出会いにつながり初監督の映画を作る場所にもなりました。

「大学生活をどう生きるか」は本当に自分次第です。振り返ってみると優秀だった同期とくらべて私自身は学生としては褒められるような学生ではなかったかもしれません。

それでも沖縄国際大学での4年間は、卒業後、どう自立して社会と向き合うのか?という天命を見つけようと思死だったと思います。「これだ!」という道が見つかるまで探し求め動き回り、情報を集め小さなチャンスも逃さず失敗や挫折を繰り返していました。

大学では良い先生はもちろん、ときに反動的にぶつかってばかりいた先生からも大きな刺激を受け、自分自身の可能性を開いた4年間でした。その全てが今の自分自身の糧になっていたと感じます。

それは沖縄国際大学の皆さんの雰囲気、一緒に学んだ仲間の影響も多分にあったと感じています。皆さんもいろんなことに挑戦し、失敗や挫折を繰り返しながら自分自身の可能性を開いてください。



OKIU 青春白書
特別編

～活躍する卒業生!～





OKIU 青春白書

～活躍する学生たち！～

Ummah Art NITTA
新田 ユマアート

産業情報学部産業情報学科 4 年次
宜野湾高校出身

面白いと思ったモノを、納得しながら デザインし続ける！

自分を表現する方法を模索し続け、たどり着いたデザイン。大学入学後に本格的に学びはじめ、JAGDA国際学生ポスターアワード2021に応募した作品「不図」が入選・審査員賞受賞、沖縄デジタル映像祭2021においてCM作品「アイスで、彩れ」を制作し企業賞・特別賞のダブル受賞などの目覚ましい活躍をしたことが評価されての受賞となりました。

様々な作品を作り続けている新田君にインタビューを行いました。

■ 子どものころからデザインが好きでしたか？

そうではありませんでした。子どもの頃は、お笑いネタを作って披露していました。お笑いって人が思いつかないことをするから笑いがおきるじゃないですか。幼少のころから、人の想像を裏切り、笑わせたり驚か

せることの楽しさと喜びを感じていました。僕の中では、お笑いもデザインも人が驚く「モノづくり」という意味でつながっています。

■ 本学を選んだ理由を教えてください

高校3年生になるまで進路が決まっていませんでした。その時に働いていたバイト先のリーダーが、「新田君はコミュニケーションが上手だし、自分の考えも持っているから沖国大のAO型入試にチャレンジしてみたら?」と言われたのがきっかけで、進学を

決めました。沖国大に受験するとなって学科選びをしていた時に、パソコンが好きで中学校から動画編集などもチャレンジしていたということもあり、産業情報学科を選択しました。店長には今でも本当に感謝しています。

■ 入学した産業情報学科はいかがでしたか？

産情(産業情報学科の略)はパソコンを通じて色々な事を学びます。プログラミングやネットワークとか。それに加え、経済系の科目と語学系の科目を学びます

が、私はそれらにあまり惹かれませんでした。ただ、中学校から動画編集とかをさわっていたので、パソコンを使ったデザインには興味がありました。

■ それで大山ゼミを選んだんですね？

僕の中で、デザインのことを一から学ぶ機会は少ないと思っていました。大山ゼミなら、デザインの基礎から学べそうだったので、大山先生にお世話になるうと決めて飛び込みました。

■ 大山ゼミでの学びはありますか？

とても厳しいです。一つの作品をつくりあげるのに、何度も先生の手直しが入ります。

賞を受賞した「不図」ですが、応募条件は「MOVE」という単語を入れたらどのような表現をしてもいいということでした。私は、ドミノの棒で表現しようと思って作品づくりを始めましたが、先生のアドバイスや手直しは1本1本の棒の位置、角度など様々な指摘が入りました。正直、細かすぎて何度も心が折れました。(笑)ただ、作品が完成に近づくにつれ、だんだん手応えを感じていました。完成した時の嬉しさと達成感は忘れられません。本当に「嬉しい」という言葉につきます。



JAGDA国際学生ポスターアワード2021
審査員賞(松下計賞)受賞作品「不図」

AGDA国際学生ポスターアワードに受賞した時の気持ちを聞かせてください

この作品は、先生から紹介されて応募しました。運営側から入選しましたという連絡が入った時に、正直ピンとこなかった。出したら全員入選するんだろうな、という感覚でした。その連絡が夏休みだったので、休みが明けて先生に報告したら、先生喜んで様々なところに情報提供してくれたんですね。

次に入賞作品を選ぶと連絡があったんですが、応募が約2700作品から入選が200作品、入賞は一枚になるので、僕の作品が選ばれるはずがないと思ってました。発表の際に僕の作品が審査員賞に入っ

ていると知った時にはとてもビックリしました。東京芸術大学の先生が選んでくださったとのことだったので、とても光栄だなと思っています。



周りの反応はいかがでしたか？

特に大山先生の反応はすごかったです。マスコミなどに情報提供をしていただき色々なインタビューを受けました。また、展示されている作品を見に行こうと先生が声をかけてくれて、東京まで観に行きました。

作品をつくる時に大事にしていることを教えてください

まず、「面白くないモノは世に出さない。自分が面白いと思ったモノを世に出す」ことにこだわっています。自分でテーマを決めて、そのテーマをブレないように掘り下げて考え、何度も何度も練りながら表現していきます。

また、大山先生という指導していただける存在がいるのは大きいです。テーマから表現の細部にいたるまで、的確な指摘、きつい言い方をするとダメ出しがあるので、自分の作品が洗練されていくのがわかります。

今後の抱負を聞かせてください！

デザイン系の道で生きていきたいと考えてます。会社に勤めるかとかフリーでやっていくかはまだ定まっていません。これからも、「自分が面白いと思ったモノを世に出す」にこだわり続けたいと思います。



教員採用試験に現役合格！！

子供たちを取り巻く状況は日々変化しております。貧困、いじめ、不登校、など従来の教育の考え方だけでは解決できない時代となり、様々な面での多様化が進み始めています。それに加え、2019年から世界を脅かした新型コロナウイルスは、子どもたちの心を育てるべき教育現場に大きなダメージをもたらしました。

そのような厳しい教育現場で、生徒を育てることを夢見て4年間勉強してきた結果、中学校英語教員採用試験に現役合格した学生がいます。ここでは、その方のお話を聞きたいと思います。

教員を目指したのはいつごろですか？

高校2〜3年生頃だったと思います。それまでは、国際社会で英語を用いて働く看護師のような医療系の道に進むことも考えていました。中学校の頃から英語が大好きだったので、どのような職種に就くとしても「英語を活かせる仕事が良い!」と思っていた部分は大きかったなと、今振り返れば思います。医療系・教育系

のどちらに進むか悩んでいた時期に、当時の担任から、「英語を『手段として使う』か『目的として使う』、どちらを一生の仕事にしたいのか考えてごらん」というアドバイスを頂いたことがきっかけで、目的として英語を活かしたいと思い、「教員」と決めました。

■ 学科の学びと教職課程の学びを通じて得られたこと、また大変だったところなどを教えてください

言い尽くせないほどの沢山の学びを、4年間で吸収できました。

教職課程の学びの世界では、子供の心理や成長過程、その成長過程に適した教育法を学ぶことができ、驚きと感動の連続でした。教員としてはもちろん、人として、親として、子供と向き合う時に必要不可欠な知識を学べたと確信しています。私の大切な財産です。

大変だったことは、本当にレベルの高い沖国の教職の授業に付いていくための日々の努力です。大学2年次からはコロナ禍となり、オンライン実施の授業も増えたため、授業の予習復習はもちろん、+αとして自分で学びを深めたりしました。そのおかげで、時間が空いたらとにかく勉強するという習慣を継続できました!

■ コロナ禍での学びについてもう少し聞かせてください

オンライン中心だったので、対面授業だったらこのニュアンスをもっと深く学べたかな、この部分がかかりにくいけど誰に相談しようかな、などを最初は考えました。ですが「この環境の中でやるしかない!」と気持ちを切り替えました。先生方も、オンライン授業上

の工夫として、参考文献の共有など適宜行ってくれたので、それらもフル活用しました。デメリットばかりが目立つコロナ禍ですが、私はステイホームの中で勉強時間を多く取れたので、すごく充実した!という様に今ではプラスに捉えられています!

■ 教育実習のときの話を聞かせてください

コロナの影響により、私が記憶している中学校の様子とは違いました。換気、アルコール消毒の徹底、黙食、マスク越しのコミュニケーションとなっており、生徒の表情が読みづらいなと感じることも多々ありました。また、これは実習前の話ですが、二次試験の翌々日から教育実習が待ち構えており、二次試験対

策を行いながらの教育実習準備という同時並行になった1カ月間は大変でした!ですが、色鮮やかな子供たちと過ごす3週間の教育実習を通し、教員という仕事に対して、「憧れ」から「覚悟」へと変わった自分の気持ちの変化もあり、非常に貴重な経験をさせていただきました!

■ 一次試験対策で特に頑張ったことを教えてください

専門試験(英語)で点数を取るために、大学の授業でも使用した計4000語のポキャブラードリル・グラマードリル集を2年半かけて約50周し、単語と文法の対策を行いました!あとは出る準で単語を覚えながら、英検1級の長文読解をひたすら解き、苦手な長文問題と必死に向き合いました!



■ 二次試験対策で特に頑張ったことを教えてください

3週間の2次対策中、模擬授業練習と面接練習に加え、コロナ対策は徹底しました。最初の1週間で多くの先生方に見てもらい模擬授業は完成させ、試験1週間前は外出を避けて、面接対策・模擬授業対策も、自宅で動画を撮り見直して修正する、の繰り返しで、80回以上は練習したと思います。はっきりとした

正解がない中で試行錯誤を重ねた試験対策は、本当に私自身との戦いで、孤独を感じる辛い期間でした。ですがその期間のおかげで、自分自身の弱い部分を素直に認め、自分に本気で向き合うことができました。

■ 4月以降は楽しみですか?

はい!! 本当に楽しみで仕方ないです!!まだまだ未熟な私ですが、そこをポジティブに捉えて、子供たちと共に成長できる「共育者」であり続けたいと思っています!

■ 教員を目指している後輩へ一言!

教員採用試験現役合格は不利と思われがちですが、現役合格は掴み取れます!私もそうですが、飾ることの無い等身大の自分の力で教採に挑み、最終合格という評価を頂けることは、大きな自信へと繋がると思います。教員を目指す後輩の皆さん、大学での

学びと自分に真正面から向き合い、現役生として自分だけが持てる強みに磨きをかけて、それを思いっきり光らせて採用試験に挑んでください!!一足先に現場で待っています♪

■ 最後に今後の抱負をお願いします!

沖縄の未来を彩る子供たちの可能性を、最大限に開花させることのできる英語教員になります!

津波先生、野口先生を始めご指導頂きました先生方、支えてくれた家族、仲間への感謝の気持ちと、沖国での学びを胸に、沖縄県の教育を支える者として、令和5年度より羽ばたいてまいります!



小学校の教員免許状 取得課程(連携)が 始まります!

星槎大学との連携により、本学に在籍しながら
小学校教諭二種免許の課程を履修できるようになりました。



この協定内容は本学で中学・高校の教員免許の課程を履修している学生や、教員免許を取得済みの大学院生が対象となり、星槎大学の通信制課程を履修することによって、本学に通いながら小学校の教員免許取得に係る必要単位を卒業までに修得可能になります。

近年、県内でも小学校教員が不足していることや、小学校において「教科担任制」が重視されていることから、今回の協定は教員養成を行う大学として現状に寄与できると共に、学生へ多様な学びの機会を提供できると考えます。

履修に関する詳細は追ってホームページ等でお知らせいたします。

免許種

小学校教諭二種免許状

受講対象者

2022年以降に在籍している学生で、本学で中学校または高等学校の教員免許状を取得する予定の者(大学院生の場合は、すでに上記の免許状を取得済みの者)。なお、本学を卒業後も、3年間は連携生として星槎大学での履修を続けることが可能です。

費用

32万円~35万円+テキスト代(全科目分で約15,000円)

※受講登録した単位分だけ費用を支払う仕組みのため、取得(予定)免許状の学校種や単位の修得状況によっては、上記よりも費用が必要になる場合があります。

必要単位数

31単位(星槎大学開設科目)+本学教職科目

※取得(予定)免許状の学校種等によって多少の変動があります。

受講方法(星槎大学開設科目)

通信学習+スクーリング

※履修を希望する場合は、年に2回開催される学内説明会に参加のうえ、必ず学務課を通して出願をしてください。

本件に関するお問い合わせ先

沖縄国際大学 学務課1担当

TEL:098-893-8944

E-mail:1stchr@okiu.ac.jp

詳しくは
こちらの >>>
ページへ



OKIU FESTIVAL

51th REPORT

第51回 冲国大祭レポート

2022年11月26日と27日の2日間にわたり、
冲国大祭が開催されました!

今年度は、3年ぶりに学外の方の来場も可能
にし、新型コロナウイルス感染症の対策を講じ
たうえで開催することができました。

コロナ禍という先行きが見えない状況の中
で、限られた中でも全力で冲国祭を実現させる
ために実行委員が掲げた今年のテーマは「百
花繚乱～最高の仲間と咲き誇れ～」。このテ
ーマには、様々な分野で活躍する学生が冲国大
祭という大きな舞台上で咲き誇り、たくさんの笑
顔の花が咲き乱れてほしいとの願いが込めら
れています。広々とした中庭を中心に様々な展
示、ライブやダンス、エイサーなどのパフォー
マンスがありました。活気と笑顔ある雰囲気が
学内に満ちあふれた大学祭となりました。



屋内コーナー

屋内で活動するサークルを中心に
アート作品の展示、参加型のゲーム
やパフォーマンスを発表していました。



現代アート研究部



現代アート研究部の
活動は、P.42ページ
も見てください!

Magician's Table



eスポーツサークル

茶道部



文芸部





メインステージ 1日目

メインステージは、たくさんの団体の演舞やアーティストによるライブが行われました。



琉球芸能文学研究会(郷土芸能)



メインステージのトップバッターは琉球芸能文学研究会。素敵な歌と踊りの幕開けを飾りました!

はるくじら(バンド)



ピリカウタリ(芸能サークル)



ピリカウタリについてはP.44ページも見てください!



Spice Gals(ダンス)



メインステージはグラウンドに移動して、エイサーの演武!



新型コロナウイルス 感染防止対策

新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年度はGoogleフォームでの事前予約制としました。大学祭実行委員が、各出入口付近で、入場ブースでの検温、来場者にリストバンドを配布し感染対策を実施いたしました。



学生環境委員会の メンバーによる ゴミの分別

今年度は模擬店も復活し、飲食のゴミの分別が課題となりました。そこで、学生環境委員会の学生が中心となり、大学祭で発生するゴミの分別指導を行いました。



その他にも、体育館では、ossf?のダンスバトル、スポーツ同好会 3on3、お化け屋敷などが開催されました。





メインステージ 2日目

2日目は天気にも恵まれ、多くの方々に来場いただきました。メインステージでは、Ms.Mr.コンテスト、B-1グランプリの発表などもありにぎわっていました。



琉球風車(エイサー)

2日目のオープニングは琉球風車の皆さんからスタート!



吹奏楽部



HODINKEE'S (バンド)



ossf? (ダンス)



「Ms.Mr. コンテスト」

Ms. Mr. Contest

沖国大祭の人気プログラムの一つでもあるMs.Mr.コンテストでは、グランプリに宮城利奈さん(英米言語文化学科3年次)と安村南澄さん(経済学科2年次)が選ばれました。ステージ上には美男美女が集い、とても華やかなプログラムとなりました。



OKIU グルメ・グランプリ

エントリーした出店の中から、1位「伊達屋」、2位「Masa's Kitchen」、3位「宮森ファミリー」が選ばれました!

Grand Prix



メインステージでは他にも、「JaaBourBonz」「平川美香」「Awich」「轟」「iamSHUM」「金城しおり」などのアーティストをスペシャルゲストに迎え、ライブ演奏やパフォーマンスが行われました。アーティストのみなさん、沖国大祭を大いに盛り上げて頂きありがとうございました。日頃、練習に励む芸能系サークルに所属する学生たちにとっては素晴らしい刺激になり、同じ舞台に立てたことが喜びとなったことでしょう。



模擬店

大学祭の代名詞ともいえる「模擬店」。課外活動団体が出店し、連日多くのお客さんと賑わっていました!今年は3年ぶりに飲食物の提供もあり、専用の飲食スペースで食べ比べを楽しまれていました。



OKIUグルメ・グランプリ1位の「伊達屋」



「Uni」シークワサージュース



タコ中毒 たこ焼き



ソフトボール部(風船割り、瓶立て)



フィナーレ

最後は、本学が誇る二大エイサーサークルの「鼓舞楽団 浦風」と「琉球風車」が、グラウンドにてエイサー演舞を披露しました。カチャーシーのあと、打ち上げ花火で終了しました。



鼓舞楽団 浦風



琉球風車



琉球風車によるカチャーシー



2022年度 第51回冲国大祭の お礼とお詫び

去る2022年11月26日(土)、27日(日)に行われました「第51回冲国大祭」に多数のみなさまにご参加を頂きましてありがとうございました。

また、冲国大祭を開催するにあたり地域住民の方々・関係者の皆様には、いろいろとご協力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

しかしながら、冲国大祭において大学周辺での騒音が生じた事に関しては、大学近隣にお住いの方々にご迷惑をおかけしました事を深くお詫び申し上げます。

最後に、大学祭の実施につきましては、課外活動の成果発表、地域住民および大学生相互の親睦を心がけておりますので、地域住民の方々・関係者の皆様には今後とも何卒ご理解・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

3月20日

「那覇市民会館デジタル保存」
NHK沖縄放送局×那覇市×沖縄国際大学産業情報学科大山ゼミ共同プロジェクト



展示を観覧する城間幹子前那覇市長(写真提供:NHK沖縄放送局)

NHK沖縄放送局×那覇市×沖縄国際大学産業情報学科大山ゼミの共同プロジェクトとして那覇市民会館のデジタル保存に取り組んでいます。本土復帰50周年にあたる今年、沖縄では歴史を振り返る様々な取り組みが行われています。1970年に建設された那覇市民会館は、ひんぶんや赤瓦など沖縄の文化を取り入れた建築として、また様々なイベントが開催され県民の思い出の場所として長年親しまれてきました。老朽化に伴い現在は立ち入りが制限されていますが、沖縄の歴史、時代を刻んできた現存する建物の1つといえます。

NHK沖縄放送局と那覇市が実施したレーザースキャンデータをもとに3次元データとして構築し、仮想空間で建物内を体験できるコンテンツ制作に取り組んでいます。3次元データ化には産業情報学科大山ゼミの学生19名が取り組んでいます。若い世代が那覇市民会館の制作を通して、沖縄の歩んできた歴史を学び継承する機会となっています。

3月19日、20日の2日間、「NHKのど自慢」の会場となった「なはーと」ロビーにてデモ展示を実施しました。多くの来場者が訪れ、実際に操作しながら大ホール内を探索し体験できる機会となりました。今後、様々な機会を通して体験できる場を設けられたらと思います。

NHK沖縄 NEWS WEB「沖縄の歴史が詰まる那覇市民会館 学生が3次元CGで再現へ」

※取り組みの様子がニュースで取り上げられました。
プロジェクトの取り組みの中で、NHK沖縄放送局と学生らと対話を重ねる機会を設けて、プロジェクトの意義や那覇市民会館がもつ歴史的な背景、沖縄復帰への理解を深めることが出来ました。学生らは対話や意見交換を通して沖縄の歴史について学び、様々な視点で考えることの大切さやコンテンツとしてどのように取り組むか、どのように次世代へ継承していくか理解を深める貴重な機会となりました。

4月1日

令和4年度入学式を執り行いました

2022年4月1日(金)、本学講堂兼体育館にて第51回沖縄国際大学入学式および第26回沖縄国際大学大学院入学式を執り行いました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで、新入生が一堂に会して始まりました。

各学部長および大学院研究科長から入学許可申請後、前津学長より入学許可がなされ、学部生1,368名(編入生含む)、大学院生29名が晴れて沖国大の学び舎で大学生活をスタートさせました。

入学式の様子はインターネットを通じてライブ配信され、入学生のご家族を含む多くの方にご覧いただきました。



4月18日

サークルスマイライフ(SmiLife)がラジオ沖縄の取材を受けました

サークルスマイライフ(SmiLife)がラジオ沖縄の沖縄の本土復帰50周年企画として、「音で振り返る沖縄」の取材を受けました。

番組の中で、沖国大へリ墜落事件を取り上げる放送回があり、学生の声を取りたいということでスマイライフ(SmiLife)に依頼があったものです。

スマイライフ(SmiLife)は社会文化学科の学生だけで構成されているサークルで、沖縄を訪れる修学旅行生の平和学習の支援を主な活動内容としており、沖国大へリ墜落事件の現場でも説明をおこなっています。

4月18日に学内で行われた取材には、スマイライフ(SmiLife)役員の名嘉真くん、長嶺さん(ともに4年生)が参加しました。

当日、取材していただいたラジオ沖縄の当銘真喜子アナウンサーも本学社会文化学科の卒業生であり、スマイライフ(SmiLife)に所属していたこともあり、取材は和気あいあいとした雰囲気のおかげですみました。



4月27日

地域行政学科野添ゼミがNHK沖縄放送局と沖縄タイムスの取材を受けました

今年は、沖縄が日本に復帰してから50年の節目にあたります。これを機会に、若者を含め、様々な人々に沖縄の戦後史について知って興味を持ってもらおうと、NHK沖縄放送局と沖縄タイムスが沖縄の戦後史における様々な豆知識やエピソードをクイズにした「復帰検定」を作り、番組や記事でとりあげています。(復帰検定オキナワココカラ! NHK沖縄放送局)

今回、この合同企画の一環として、NHK沖縄放送局と沖縄タイムスの方々が、法学部地域行政学科の野添ゼミを訪れました。

ゼミでは、まず記者の方が、復帰に至る歴史について説明した後、学生たちが復帰検定に実際に取り組みました。その上で、学生たちがグループに分かれて、沖縄は日本に復帰してどうだったのか、米国統治のままや独立といったほかの選択肢はなかったのか、といったことについて議論し、最後にグループごとに発表しました。授業の内容は、NHKの番組や沖縄タイムスの記事で紹介されるそうです。

今年は、復帰50年ということで、沖縄の歴史とこれからについて考える非常にいい機会です。今回の授業もそのような貴重な機会となりました。



5月16日

2021年度CG-ARTS賞(新田ユマアートさん:産業情報学科)

産業情報学科の新田ユマアートさん(大山ゼミ)が2021年度CG-ARTS賞を受賞しました。この賞は公益財団法人情報教育振興協会の教育認定校である産業情報学科において、CG-ARTS検定合格者やCG・Web・画像処理・マルチメディア関連カリキュラムにおいて学業優秀な学生に贈呈されます。学内での授与式を2022年4月8日に学部会議室にて学科長、担当ゼミ教員、新田さんの関係者のみで行いました。

新田さんは、CG-ARTS関連カリキュラムにおいて優秀な成績を取っており、2021年度においては、JAGDA国際学生ポスターアワード2021に応募した作品「不図」が入選・審査員賞受賞、沖縄デジタル映像祭2021においてCM作品「アイスで、彩れ」を制作し企業賞・特別賞のダブル受賞などの目覚ましい活躍をしたことが評価された受賞となりました。

産業情報学科ではこの他にも所定の科目を履修することで免許や資格を取得できるようなカリキュラムを用意しており、実社会で活躍できる人材の育成を目指しています。



5月25日

金秀グループ様より寄付金を賜りました

去る5月25日、創業75周年を迎えた金秀グループ様より、人材育成支援を目的とした多大な寄付金を賜りました。本学を含め県内11団体に寄付されました。

賜りましたご厚志は、学生の修学支援および学習環境の整備・充実に活用させていただきます。教職員一同、心より御礼申し上げます。

5月26日

日本銀行様とオンライン授業を開催しました

5月26日(木)非常勤講師の名城先生が受け持つ「ファイナショナル・プランニング」で、日本銀行本店が提供するオンライン学習プログラム「沖縄で、にちぎん」を行い、日本銀行本店と那覇支店、本学をオンラインで結んで開催されました。

このプログラムは、教育ICTを使用した楽しい学習機会(金融経済教育、キャリア教育、文化財鑑賞)として提供されており、県内では本学が初の開催だそうです。

日本銀行本店職員より「1.日本銀行の歴史や業務内容について」で金融政策や業務に関する内容を、「2.日本銀行本店本館(国の重要文化財)のオンライン見学」では、重要文化財である本店本館の3D・VR(仮想現実)映像を使用した本館内リモート見学が行われました。次に、那覇支店職員による「3.沖縄県の経済状況について」というテーマで、県経済の現状について詳しく解説がありました。



受講生の感想

●企業システム学科3年次 与那覇優女菜さん

今まで日本銀行について学ぶ機会は多くありましたが、日本銀行と聞くと難しい組織というイメージが強く、具体的にどのようなお仕事をされているのかなど積極的に学ぶことを選けていました。

しかし、今回の特別講義では、日本銀行の歴史や歴代総裁のエピソードなどを交えながら日本銀行がどのようなことを行っているかをお話していただけたので、難しくするというイメージを和らげることができ、以前よりも関心を持つことができました。

お札の偽造防止技術についても、想像していたより多くの技術が使われている、お札に信頼があるからこそ、日本の現金志向が高いのだと納得しました。

今後は将来について考えつつ、より積極的にお金の仕組みを学んでいきたいと思っています。

●地域環境政策学科2年次 内間健人さん

今回の講義では、日本銀行の職員の方から銀行券のことや金融政策のことを聞いて、これまで知らなかった業務内容について知ることができた。業務内容でも、「日銀ネット」という日本銀行の本店と金融機関を結ぶシステムが驚きだった。以前から、どのように預金を他の銀行口座に移しているのか不思議だったのでそれを「日銀ネット」が行っているという話が印象に残った。

私たちの日常のお金のやり取りを快適にする仕事を行っているということを知り、日本銀行は私たちの日々の生活に欠かせない銀行だと思った。

7月19日

第81回韓国語能力試験で16名合格

2022年4月10日に本学(本会場)で実施された第81回韓国語能力試験で、16名が合格を果たしました。

おめでとうございます!

韓国語能力試験は、大韓民国政府(教育省)が認定・実施するので、韓国文化の理解及び留学などの学術的性格に必要な能力の測定・評価を目的とし、TOPIK1(1~2級:初級)とTOPIK2(3~6級:中・上級)の二つのレベルから選択できます。

去年に続き今年も新型コロナウイルスの影響により、人数制限を設けての実施となりましたが、受験者からは気合いが入った様子が窺えました。

今回は残念ながら最上級である6級の合格者はいなかったものの、2名の学生が5級合格を果たしたことは素晴らしい結果です。

5級合格者の一人である、當銘ゆいさん(社会文化学科4年次)は、「3月まで国外協定校の韓南大に留学をしていた。留学先の語学学校でも試験対策を受けていたが、帰国後も引き続き苦手な作文の問題を中心に取り組んだ。結果に残せてうれしいが、次回は6級目指して頑張りたい。」と語りました。

もう一人の5級合格者である瀬名波和さん(地域環境政策学科4年次)は「韓国語能力試験の公式HPに掲載されている過去問を活用して勉強した。作文問題が難しいが、文章の書き方やよく使う表現が決まっているのでその部分を中心に対策を行った。次回も頑張りたい。」とコメントしました。



試験の合格証は、皆さんの努力の結晶です。日々の韓国語学習が様々な日韓交流の形につながっていくことを願います。皆さん、また次の目標に向けて 奮闘!

7月3日・17日

夏のオープンキャンパスを開催しました!

7月3日(日)と17日(日)に夏のオープンキャンパスを開催しました!

事前申込制をとり、受付にて検温や教室の収容人数も制限し、マスクの着用や教室入口での手指の消毒、こまめな換気等、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を徹底しての開催となりました。

事前申込制をとり、7月4日より引き続き、開催させて頂きました。

各学部学科教員による模擬授業や個別相談や教室前で学科学生との交流や、入試制度説明、国内外留学制度、奨学金・就職支援に関するブースを設置したりなど、数多くのプログラムを実施しました。

また、本学ツアーガイドによるキャンパスツアーも実施。ツアー参加者はキャンパス内の各施設を巡りながら本学への理解を深め、積極的にキャンパスコンシェルジュへ質問する様子も見られました。



7月22日

学生表彰授与式を執り行いました

7月22日、本学厚生会館にて学生表彰授与式を執り行いました。

今年度は、学部長賞が1名、校友会長賞が3組(8名)の合計9名の学生が表彰されました。

学部長賞は「人物及び学業ともに優秀な成績を修めた者」、校友会長賞は「文化活動及びその他の分野で本学の社会的評価の高揚に著しく貢献したと認められる個人及び団体」に対して贈られる賞です。

学部長賞は、学生の所属する総合文化学部長の井村弘子教授より、校友会長賞は、校友会長に代わり前津榮健学長より表彰を行いました。

前津学長からは、「学生の皆様の日ごろの活動の結果が授与につながりました。コロナ禍により様々な活動に制限がありますが、そのような状況に負けず、今後とも学業とそれぞれの活動を継続してください。」と激励の言葉がありました。

例年であれば入学式で表彰をしますが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた縮小開催となったため、この時期の授与となりました。



受賞学生・団体と主な実績は下記のとおりです。

学部長賞 1.石川 舞さん(日本文学学科3年次)

1.宇良 宗一郎さん、國場 大暉さん、外間 凜さん(地域環境政策学科4年次)

校友会長賞 2.地域環境政策学科 藤藤星耕ゼミ再生可能エネルギー・省エネルギーグループ(指導協力 小山聡宏氏) 宮城 拓香さん、前富里 弥彦さん、阿波根 顕弥さん、仲島 辰星さん(地域環境政策学科4年次)

3.天久 聖聖さん(人間福祉学科心理カウンセリング専攻3年次)

8月3日

**沖縄県立博物館・美術館にて
産業情報学科の学生が制作した「バーチャル那覇市民会館」が展示されています**

7月20日～9月19日まで沖縄県立博物館・美術館で開催されている「NHK沖縄が見つめた50年」展にて、NHK沖縄放送局×那覇市×沖縄国際大学産業情報学科大山ゼミの共同プロジェクトで制作した「バーチャル那覇市民会館」が展示されました。

この展覧会は、復帰50年を迎える節目の年に、沖縄の自然・歴史・文化等、多様な面から沖縄について考える展示です。そのなかでも、バーチャル那覇市民会館のコーナーでは、沖縄復帰記念式典が行われた那覇市民会館をデジタルで保存し、コントローラー操作できるバーチャル空間を体験することが出来ます。5月～6月に東京国立博物館で展示されたコンテンツに加え、360度映像を駆使したペーパードームを用いてより立体的な映像も体験できます。



8月13日

「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつく集い」を開催しました

2022年8月13日(土)午後2時より、「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつく集い」を開催しました。

2004年8月13日の米軍ヘリ墜落事件から18年目を迎えます。事件を風化させないために、本学では毎年「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつく集い」をポケットパーク(ヘリ墜落現場モニュメント)前にて開催しています。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し規模を縮小して開催し、教職員49名の参加がありました。

集いでは、前津榮健理事長・学長による、普天間基地の閉鎖・撤去を求める旨の声明と、学生を代表し総合文化学部社会文化学科2年次の永田美桜さん(日本外国語専門学校・埼玉県出身)による意見発表をおこないました。



8月17日

【軟式野球部】大学軟式野球春季リーグ戦優勝!

2022年6月22日～6月24日に開催された2022年沖縄県大学軟式野球春季リーグ戦において、本学軟式野球部は、4連勝で優勝を果たしました。

県内リーグで全勝優勝は2013年以来、9年ぶりの快挙です。また、地域行政学科3年次の比嘉海理くんが、同大会の最優秀選手として選出されました。

軟式野球部は大会の優勝報告をするために前津榮健学長を表敬訪問し、更なる飛躍を誓いました。前津学長より「ここ数年は、体育系サークルの設備整備にも力を入れている。皆さんも、今の環境で一層の練習に励み、優勝を掴んで欲しい」と激励の言葉がありました。

優勝した同部は、8月に長野県で開催予定の第2回全日本大学軟式野球選抜大会へ出場しました。



10月7日

令和4年度 秋季卒業式・大学院修了式を挙行いたしました

令和4年度秋季卒業式・大学院修了式を令和4年10月7日(金)に挙行いたしました。

コロナウイルス感染防止の観点から、今年度も各学部に分かれて開催となりました。

今年は法学部4名、経済学部10名、産業情報学部7名、総合文化学部11名の学部計32名に卒業が認定され、それぞれ新たなステージの一步を踏み出しました。



11月2日

学生ボランティアコミュニティ「Uni(ゆに)」のみなさんが沖縄タイムス社の取材を受けました

地域の活性化を目的とした学生ボランティアコミュニティ「Uni(ゆに)」が沖縄タイムス社の取材を受けました。

この日は、真和志自治会長連絡協議会 副会長で松島自治会 会長の西平博人様も取材に参加いただきました。

Uniとは、「伸びる学生×広がるコミュニティなにかしたいをカタチに」をコンセプトに活動を行っており、現在、メンバーは企業システム学科原田先生のゼミを中心に10名の学生が参加しているそうです。

Uniの代表で企業システム学科3年次の与那覇優菜さんは、「活動の内容は、那覇市の自治会と学生をつなげる事業を行っており、その中で、自治会の緑化活動やローカルマップ作りなどを中心に行っております。

今後、学生に地域の自治会の仕組みを知ってもらい、地域との関わりに繋げていきたい」と語っていただきました。



11月3日

琉球風車が第7回世界のウチナーンチュ大会でエイサーを披露しました!

2022年10月31日~11月3日の日程で開催された「世界のウチナーンチュ大会」は、世界に移民として渡った県系人の功績を讃えるとともに、ウチナーネットワークを発展させることを目的に5年に1度開催されています。(今回は新型コロナの影響で6年ぶりの開催となりました)

その閉会式にて、本学のエイサーサークル「琉球風車(りゅうきょうかじまやー)」がエイサーを披露しました。当日は卒業生も含めて100人以上での圧巻のエイサー演舞でした。

閉会式には国内外7,000人以上の観客と、その様子は世界に向け

てオンライン配信もされ、世界に向けて伝統文化を継承しようとする若者の姿を発信しました。

会長の佐久原琉也さん(法律学科4年次/宜野湾高校出身)は出演に際して「沖縄にルーツを持つ県系人や沖縄に縁のある方々、また沖縄に気持ちを寄せていただいている方々の沖縄を愛する想いの大きさが、拍手や声援を通して改めて実感しました。今回の出演は、私たちの経験で今までにない最高の機会となりました。5年後の第8回大会では、世界の方々と一緒に踊れたらと思っています!」とコメントを寄せました。



11月16日

ゴルフ沖縄女子選手権で仲村姫乃さんが初優勝

10月27日に開催されたゴルフ沖縄女子選手権で経済学科3年次の仲村姫乃さんが初優勝を飾り、11月16日、顧問の呉錫畢先生と前津学長を表彰訪問しました。前津学長からは「優勝おめでとうございます。本学ゴルフ部全体のレベルを上げられるよう引っ張って行って下さい。今後の活躍を期待しています。」と仲村さんの活躍を称えました。

今大会には約120名の県内アマチュアゴルファーが参加され、この大会で優勝しプロとして活躍している選手も多く、仲村さんはこれまで5位が最高順位でしたが、今回は最初から優勝を狙って出場されたそうです。

普段はゴルフ練習場での1日2時間の練習に加え、ランニングや筋トレなどトレーニングに励んでいるそうです。

仲村さんは今後プロテストを受ける予定です。仲村さんの今後の活躍を応援しています。



12月14日

本学男子サッカー部が九州大学サッカーリーグ(2部)で優勝! 1部リーグへ昇格

去る「KYFA 2022年度第37回九州大学サッカーリーグ」にて、11月19日に男子サッカー部が2部リーグで優勝を決め、12月11日の1部入替戦にて名桜大学を破り1部リーグへ昇格しました。

結果をうけ、12月14日に前津学長を表彰訪問しました。男子サッカー部が九州大学サッカーリーグにて1部リーグへ昇格するのは2019年以来3年ぶりです。

下地選手からは、「今季の目標である九州1部リーグ昇格を決めることができました!!本当にたくさんの応援ありがとうございました!」と今年の活動を振り返りました。

前津学長からは、「2部リーグ優勝に加え、1部昇格おめでとうございます。皆さんの日ごろの練習の成果が実を結んだと思います。次は1部リーグで上位に上られるよう頑張ってください」と激励の言葉を述べられました。



なお、個人賞に数名の選手が選出されています。左より、ベストMF賞:伊佐航平さん(地域行政学科)、ベストDF賞:下地陸斗さん(地域環境政策学科)、仲村颯世さん(法律学科)、最優秀選手賞、得点王:岩井響太郎さん(人間福祉学科社会福祉専攻) これからの活躍に期待しております!

1 現代アート研究部

部長

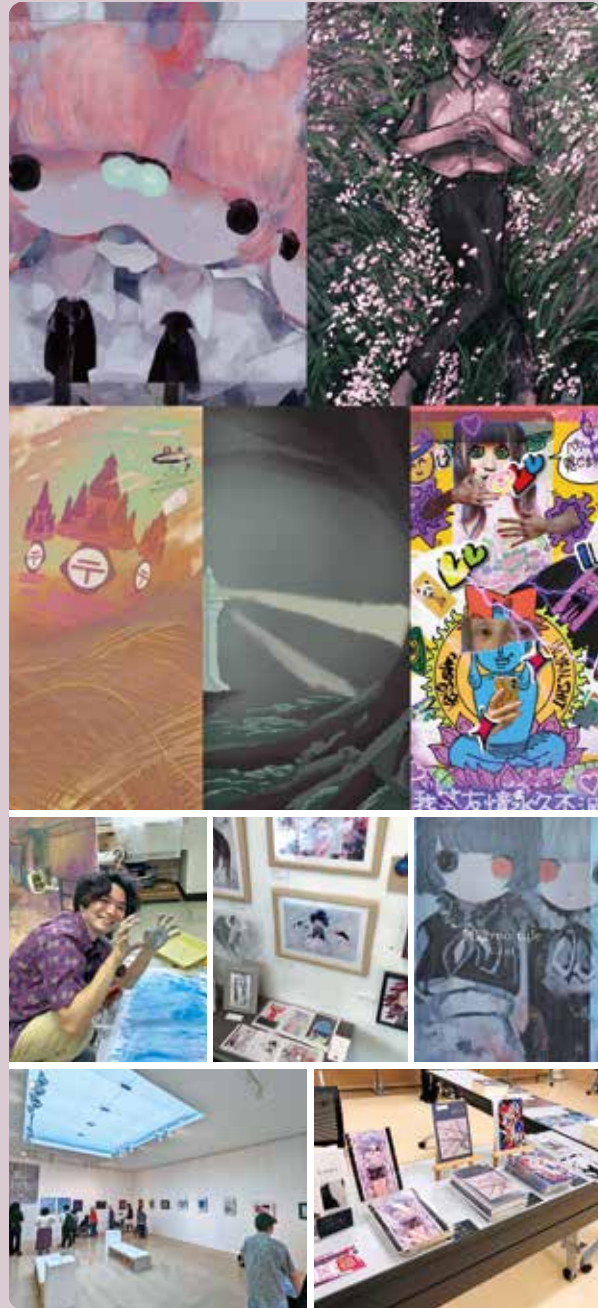
石川 舞 (イシカワ マイ)

入部方法

部室にて顔合わせをします

部活動場所

サークル棟2階



少人数で活動中のサークルです。今年度は、イラストフリーペーパーの作成や県内のアートギャラリーでの展示、写真部と沖縄県立美術館での合同展といった活動を行いました。油絵・コラージュ・デジタルイラストなどそれぞれの好きなジャンルで好きな創作活動をしています。グッズ製作・販売なども行っています。アートだけでなく、びぶりお文学賞や名桜文学賞など、県内の文学賞に応募し実績を残しました。学内だけでなく、学外でのアート活動に興味のある方、創作活動してみたい方は是非現代アート研究部へお越しください！

2 ゴルフ部

部長

青川 栄太 (アオカワ エイタ)

入部方法

主将に連絡ください
22CB001@okiu.ac.jp

部活動場所

森川ゴルフガーデン

私たちゴルフ部は、男女8名で活動を行っています。毎週木曜日に森川ゴルフガーデンで練習をしています。また、毎月1回はコースでのラウンドを設け、試合で必要とされる、コースの状況、距離情報やグリーンのコンドーションなどさまざまなことに対応できるようになるための練習もしております。部員のほとんどが初心者のため、経験者問わず初心者も大歓迎です！少しでも興味がある方、ぜひお待ちしております！一緒にゴルフを楽しみましょう！



3 芸能文化サークル ピリカウタリ

部長
川勝 渚羽太 (カワカツ ショウト)

入部方法
活動時間にお越し頂くか、公式ホームページ・Instagramアカウントがありますので、DM をお送り下さい。



Instagram
@okiu_pirikautari

<https://pirikautari.wixsite.com/okiu>

部活動場所
体育館1階剣道場

まず見学体験に!もしくは、直接演舞を見て欲しい!なぜならこの枠には収まらないほど幅広く活動を行っているサークルが私たちピリカウタリだからです。昨年7月に設立し、地域のイベント出演や舞台制作・振り付け・演出構成など1からオリジナルで行っております。未経験者も経験者も大歓迎ですので、見学体験お待ちしております!



4 沖縄国際大学ラグビー部

部長
島袋 大成 (シマブクロ タイセイ)

入部方法
詳しくは練習時に直接グラウンドへお越しください。

部活動場所
沖縄国際大学グラウンド

ラグビー部は部員数約20名で活動しています。県内リーグは1部に所属しながら、九州学生リーグではII部に所属しております。

練習日は【水・金】16時～【土・日】は日程により変動があり大会や練習試合を行っており、部員数は少ないながらも全員で切磋琢磨して日々練習に励んで上位リーグ進出を目指しています。

ラグビーを通して人として成長し、学生生活が充実するだけでなく社会に出る上で必要な資質も身に着けることができます!!初心者・マネージャー希望の方も歓迎中です!ぜひ、グラウンドにお越しください!

心も体も大きく成長させ大学生生活を誰よりもエンジョイしましょう!



採用教職員紹介〔2022年4月1日付採用〕①最終学歴 ②専門分野



法学部 法律学科 講師
青木 洋英 (あおき ひろよし)
 ①中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了博士(法学)
 ②憲法学、動物法学



法学部 法律学科 講師
松井 有美 (まつい ゆみ)
 ①大阪大学大学院法学研究科 博士後期課程修了博士(法学)
 ②労働法、社会保障法



産業情報学部 企業システム学科 講師
城間 康文 (しろま やすふみ)
 ①兵庫県立大学大学院経営学研究科博士課程単位取得満期退学 修士(経営学)
 ②経営戦略論



総合文化学部 日本文化学科 准教授
名城 邦孝 (なしろ くにたか)
 ①筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程満期退学 修士(図書館情報学)
 ②図書館情報学



総合文化学部 英米言語文化学科 講師
萩埜 亮 (はぎの りょう)
 ①早稲田大学文学部文学研究科博士後期課程単位取得満期退学 修士(文学)
 ②アメリカ文学、即興文化研究



総合文化学部 社会文化学科 講師
阿利 よし乃 (あり よしの)
 ①琉球大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程修了 博士(学術)
 ②民俗学、沖縄地域研究



総合文化学部 人間福祉学科 准教授
荻野 太司 (おぎの ひろし)
 ①広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期単位取得満期退学 修士(法学)
 ②更生保護、刑事政策



教務部 学務課 係員
普久原 ゆみ (ふくはら ゆみ)
 ①沖縄国際大学総合文化学部人間福祉学科卒業

採用教職員紹介〔2022年9月15日付採用〕①最終学歴 ②専門分野



法学部 法律学科 講師
姜 恩英 (かん うんようん)
 ①早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程修了博士(法学)
 ②商法、海商法

昇任 教育職員〔2022年4月1日付昇任〕

新職名	氏名	旧職名
法学部 教授	平 剛	法学部 准教授
法学部 教授	野見 収	法学部 准教授
産業情報学部 教授	曹 真	産業情報学部 准教授
総合文化学部 教授	村上 陽子	総合文化学部 准教授

昇任 教育職員〔2022年10月1日付昇任〕

新職名	氏名	旧職名
経済学部 准教授	大城 絢子	経済学部 講師
産業情報学部 准教授	菅森 聡	産業情報学部 講師
総合文化学部 准教授	我部 大和	総合文化学部 講師
総合文化学部 准教授	阿嘉 奈月	総合文化学部 講師

令和4年度 うまんちゅ定例講座実施報告

「うまんちゅ定例講座」は、地域に根ざした大学として、地域の方々と、日常や将来の糧になるような知識を共有するという観点から、毎年テーマを設定し、わかりやすく解説し考えていく講座です。令和4年度は、経済学部が担当し、『「復帰」50年と沖縄経済』をテーマに7月から10月にかけて全10回を開講いたしました。

- ◇ 沖縄振興の50年
- ◇ 復帰後50年、県民は幸せになったのか—県民生活の変化—
- ◇ 沖縄振興予算の経済効果
- ◇ 沖縄経済における観光産業の貢献と課題
- ◇ 沖縄県における金融の変遷
- ◇ 沖縄財政の50年
- ◇ データサイエンスで見た復帰50年
- ◇ 沖縄の学校教育—これまでの50年、これからの50年—
- ◇ 賃金を経済思想史から考える—沖縄県の賃金の推移—
- ◇ 歴史を学ぶこと・問うこと—琉球・沖縄史の展望—

今年度は延べ250名の受講生の方にご参加いただきました。今回の講座内容は、書籍化され2023年4月ごろに全国の書店で販売予定です。

学生会館が 開館から2年



「スタイリッシュで居心地のいい空間」として、2021年3月に学生会館が開館し、2年が経とうとしています。学食、カフェともにメニューのバリエーションが増え、食事がリーズナブルな値段で楽しめます。1階のセブン-イレブンは品数豊富で、プライベートブランド商品も充実しており、学生生活の心強い味方です。

キャンパスライフの憩いの空間として学生からも好評です！



大学行事案内 (2022年12月～2023年3月)

12月27日(火)～1月3日(火)	冬期休業
1月 4日(水)	後期後半講義再開
1月24日(火)～2月4日(土)	後期試験・補講期間
1月29日(日)	大学院2月選抜入試
2月 1日(水)	一般選抜試験(専門高校・総合学科卒業生選抜試験含む)
2月 4日(土)	後期講義終了
2月 9日(木)～3月31日(金)	春期休業
2月25日(土)	本学創立記念日
3月 1日(水)	再試験(3月卒業)
3月 4日(土)～3月6日(月)	総合型選抜試験(B日程)
3月17日(金)	卒業式
3月19日(日)	春のオープンキャンパス

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学行事に変更が生じる場合があります。変更については、本学ホームページでお知らせします。

OKIU SNS

大学公式SNSでは随時情報を発信中です。LINEでは入試広報関連情報を、InstagramとTwitterでは大学構内の風景やキャンパスライフを、Facebookでは保護者や卒業生向けの情報を中心に更新しています。ぜひ一度ご覧になって下さい。



LINE
@okikokudai



Instagram
@okikokudai_pr



twitter
@okikokudai_pr



facebook
@OKIU.PR

平和・共生 個性・創造 自立・発展



沖繩国際大学



編集 | 事務局広報課 〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾2-6-1 TEL.098-893-7629 Email : pubchr@okiu.ac.jp

印刷 | 株式会社 東洋企画印刷